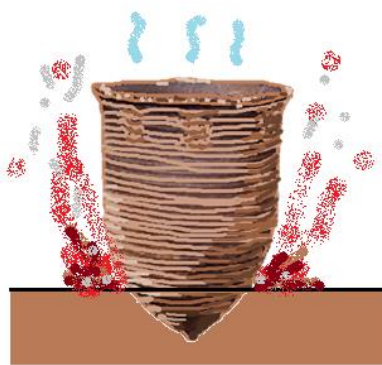


## メッセージ 2

## 土器は煮炊きするだけの道具なのか？

企画展から、六ヶ所村で発掘された縄文時代の遺跡から読み取れる、当時の様子や縄文人の思いを時代区分ごとに7つのメッセージとして、ご紹介します。縄文草創期からのメッセージ2です。



隆起線文土器



おもてだて 表館(1)遺跡の、約 12,700 年前の千曳 ちびき  
ふせきそう 浮石層から、りゅうきせんもんどき 隆起線文土器が出土しました。このことから隆起線文土器が、全国的にその分布が広がっていたことがわかりました。また、はつちやざわ 発茶沢(1)遺跡からも出土し、その底部片は、中央に直径 17 mm の円形の隆起線が施され、さらに 7 本の隆起線 ほうしゃじょう が放射状に施されていました。はじめのころの縄文土器は底が尖る、または丸いなど、形が不安定でした。なぜこんな不安定な形をしているのでしょうか？鍋の機能 なべ として熱が伝わりやすいという考えや、生きるために必要な水や食料を蓄える器 たくわ や、その形は命を宿す子宮を表現している うつわ という考えもあります。